

東岐山だより

令和2年4月号 通刊147号

355-0044 東松山市正代755-1 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email: semyojuji@yahoo.co.jp HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

令和2年度 世明寿寺護持会総会

●日時 4月26日(日) 午前10時
●会場 世明寿寺

是非、出席してください

* 例年よりも遅らせて、月末に開催する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更等がある場合もあります。

はなまつり

4(土)5日(日)

お釈迦様がお生まれになったのは今から約2500年前の4月8日。インドの北部カピラ国のルンビニー。はなまつりは、お釈迦様の誕生をたたえていとなまれる法会です。

花園のルンビニーになぞらえ色とりどりの花で飾られた花御堂を設け、その中に「誕生仏」を安置します。

お釈迦様が生まれたとき竜王が香水の雨を降らせ、お釈迦様の体を清めたという伝説から、甘茶を濯ぐ風習が広がりました。甘茶は甘露のことで、甘露とはこれが天から降り注がれると、人々の苦悩を取り除き、長寿を得ることができると言われています。

家に持ち帰った甘茶で墨をすり、「昔より卯月八日は吉日よ 神さけ虫を成敗ぞする」と書いた紙を貼っておくと雷よけや害虫駆除に効果があると言われています。



9年経っても「東日本大震災」を忘れない

新型コロナ感染で、学校が休校したり、軒並み多くのイベントや会議等が中止や延期になっている昨今ですが、3月11日、午後2時46分に梵鐘を撞いて、本堂にて供養を行い、改めて東日本大震災を振り返りました。

未だに行方不明者が2000人を超える、いまだかつてなかった大災害は、心いたむ悲しい出来事でしたが、悲しい中にも「おもいやり」「たすけあい」「きずな」など、忘れかけていた日本精神の良さが見直され、世界の国々から高く評価されるきっかけとなりました。これは、聖徳太子が示された「和の精神」が、日本人の心として根付いていたからだと思います。

また、東日本大震災のあとで、考えてもみなかったこと「想定外」という言葉をよく耳にしました。歴史的に見れば、1先年以上前の平安時代に、今回とほぼ同じ規模の大地震があり、同じような津波が押し寄せ、三陸海岸に大規模な被害をもたらしたことが知られています。一部の専門家は、同じ事が近いうちにふたたび起きることをみんなに知らせようとしていたそうです。

お釈迦様の、すべてが移り変わる「諸行無常(しょうぎょうむじょう)」の教えからすれば、親鸞聖人が書かれているように「いまさら驚きを覚えるのではなく、すべてが仏様の教えの「想定内」のことと言えます。

どのような状況にあっても永遠に壊れないものなどありません。原子力発電所もしくり。壊れる原発ということをいつも考えて、その上に立って、「果たしてどの程度安全であるか」「壊れるとすれば、被害を最小限にとどめるにはどうすれば良いか」を考えておく必要があります。

お釈迦様の教えを、いつも心に深く刻んでおきたいものです。そして、原発から放射能の危険のない再生可能自然エネルギーに変わる日が早く来ることを願って止まないものです。

お知らせ

■将来、お墓の継承者がいない！？ そんな時は「永代供養」も一つの方法です

様々な事情で、お墓を守っていくことができないという方がおります。例えば、お子さんやその他の継承者がいなかったり、遠方に住んでいて、墓守りやお墓参りが思うようにできないという方々です。

そのような場合に、一つの方法として提案させていただくのが、「永代供養」という方法です。「永代使用」というのがありますが、これは「墓地を求めたときに、檀家の務めを果たしている限り永代に亘りその土地を使用できる権利」のことですが、「永代供養」とは、予め死後(当山では33年間)の供養料を納入すれば、寺が年回供養は勿論、毎年春夏の彼岸・お盆の供養を行うという供養の方法です。施主に成り代わり、毎年の定期的な供養を寺が責任を持って行うというものです。

「永代供養」を行っている寺では、一般的に「納骨堂」や「合祀の永代供養墓」というものを作って、その中に「永代供養の仏様」を一定期間(3年くらい)合祀し、期間を超えると、壺を開けて土に返すという場合が多いと思いますが、当山世明寿寺では、「合祀の永代供養墓」という方法はとらず、原則一体毎の永代供養墓を建立していますので、一定期間が過ぎても壺から明けて土に返すことはありません。壺から開けて土に返すのは、33回忌を過ぎてから、ということで一般のお墓に安置してある遺骨に対する方法と同じになります。なお、永代供養は、檀家以外の方の申込みもお受けしています。

詳しく知りたい方は、是非ご相談下さい。



■今月ことば 今月から5回にわたり、『修証義(しゅしょうぎ)』連載します

曹洞宗の根本聖典は、道元禅師の主著『正法眼蔵』95巻です。この膨大な聖典の中から、平易な文言を拾い上げて、編集して作られたのが『修証義』です。修は坐禅、証はさとりのことです。

第1回 <修証義の教え-総序-生死の本質をはっきりさせる章>

冒頭「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり」は、「人間として生まれ、仏法に出会ったことは、素晴らしいことである。だからこそ、この生涯を無駄にしてはならない。はかなく露のように終わらせてはならない。かけがえのない生命を、充実して生きなければならない」と説きます。

■今月の予定

- 寺子屋
- 坐禅会・写経会
- 護持会総会

*新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更等があります。

4, 11日
12日 坐禅：7時 写経；8時
26日 午前10時

■お願い

年回忌法要年に当たっている仏様が祀られている家には、関係各家にご案内をさせていただきます。法要日時等は、できるだけ早めにご相談下さい。